

第3章 小川町が目指す環境像と基本目標

1. 小川町が目指す環境像

『里山文化が育んできた自然を愛する持続可能なまち おがわ』

本町の自然環境は、町民を支える原風景であり、日々の暮らしにうるおいを与える欠くことのできないものです。

この自然環境は産業、伝統などの町民の暮らしとともに育まれてきた里山文化の象徴ともいえます。

例えば、平成26年11月にユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙の手漉和紙技術は、本町の自然や風土が育んだ伝統文化でもあり、本町の豊かな自然の恵みの賜物であると言えます。

一方、東北地方太平洋沖地震の発生を契機としたエネルギー利用のあり方は、本町においても環境問題は“地球規模で考えて足元から行動する”という基本的な姿勢を改めて考え直すきっかけとなりました。

私たちは、将来にわたり、この豊かな自然を守り、次世代にこの豊かな環境を残していくために、地球温暖化対策などの地球環境問題も視野に入れた、持続可能なまちを作っていかなければなりません。

これらのことから、本町が目指す環境像を『里山文化が育んできた自然を愛する持続可能なまち おがわ』とし、この環境像の実現に向けた取組を行っていくこととします。

2. 目指す環境像を実現するための基本目標（4本の柱）

目指す環境像を実現するために、第1章の「4. 対象とする環境要素」に対応する、以下の基本目標（4本の柱）を設定します。

■ 目指す環境像を実現するための基本目標

【自然環境の保全に関わる基本目標】

町民の生活とともに育まれた豊かな自然が保全されているまちを目指します

【生活環境の保全に関わる基本目標】

きれいな空気と水、静かで暮らしやすい生活が送れるまちを目指します

【まちづくりにおける環境配慮に関わる基本目標】

美しく、快適で暮らしやすい秩序あるまちを目指します

【地球環境問題への対策に関わる基本目標】

地球規模で考えて足元から行動する持続可能なまちを目指します

3. 計画の体系

目指すべき環境像を実現し、それを実現するための基本目標に向けた取組について、以下の体系に基づいた展開を図ります。



